

# 広報家畜衛生

No. 322 平成29年1月26日

徳島県家畜防疫衛生センター  
西部家畜保健衛生所 吉野川庁舎  
〒776-0002 吉野川市鴨島町麻植塚  
TEL 0883-24-2029 FAX 0883-24-1397

西部家畜保健衛生所 東みよし庁舎  
〒776-0002 三好郡東みよし町中庄  
TEL 0883-82-2397 FAX 0883-82-4843

## 高病原性鳥インフルエンザ防疫対策のさらなる徹底をお願いします！！

今季における野鳥での高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染は、1月24日現在、18道府県において184件が確認されており、過去に例を見ないスピードで、全国にウイルスが拡がっております。

本病の家きんでの発生は、渡り鳥や野生動物が関与するといわれていますが、国の疫学調査チームの報告でも、鶏舎に野鳥や野生動物がウイルスを持ち込んだ可能性について言及しています。

また、1月半ばには、今期最強の寒波が到来し、寒波の後には、渡り鳥が、より暖かい餌の豊富な場所へ移動するといわれており、過去の事例でも、本病の多くが1月、2月に発生しています。

こうした状況下、1月24日、宮崎県において、2例目となる高病原性鳥インフルエンザの発生事例が確認されました。

養鶏農家の皆様においては、鶏舎周囲の石灰散布や防鳥ネット・鶏舎の点検・補修を重点に対策をとられるとともに、これから、春節（H29.1.28）の時期を迎えるに当たり、多くの外国人旅行者が我が国を訪れる等、アジア地域における人・物の移動とともに海外からのウイルスの侵入のリスクは一層高い状態が続きます。

改めて、防疫対策のさらなる徹底についてよろしく申し上げます。

## <国内家きん農場における発生状況>

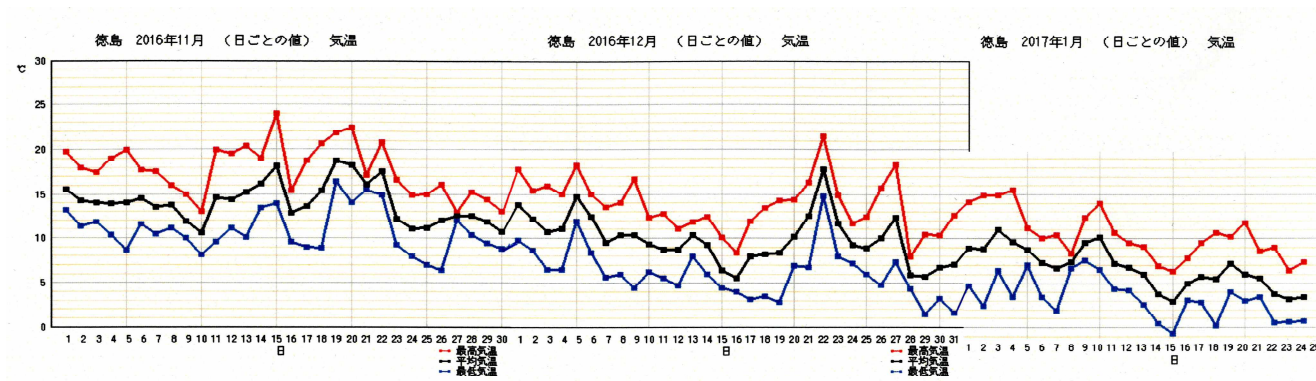
青森県		
青森市	あひる農場	約1万8千羽
青森市	あひる農場	約4千8百羽
新潟県		
関川村	採卵鶏農場	約31万羽
上越市	採卵鶏農場	約23万羽
北海道		
清水町	採卵鶏農場	約21万羽
宮崎県		
川南町	肉用鶏農場	約12万羽
木城町	肉用鶏農場	約17万羽
熊本県		
南関町	採卵鶏農場	約9万2千羽
岐阜県		
山県市	採卵鶏農場	約7万8千羽

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生・検出状況(平成28年11月以降)





## 寒波襲来時にはとくに注意を！



上のグラフは、徳島市の2016年11月から2017年1月の気温の推移です。気温は低下傾向にあり、とくに年明けからは寒波の影響でますます寒くなってきています。

今シーズン、既に6道県・9農場でHPAIが発生していますが、前半の発生は、北海道及び東北に局在しており、これは、大陸におけるウイルス汚染の拡大を示していると思われます。

一方、寒さが厳しくなった12月下旬以降は、西日本での発生が多くなっています。

平成22年にも、9県・24農場・約183万羽とHPAIが多発しましたが、この時も、1月下旬に東アジアに到来した寒波の影響で、韓国や大陸で湖沼や河川の凍結、採食地の積雪などが長期化し、水きん類がより温暖な日本への移動があり、これらがウイルスを持ち込んだのではないかとされています。

過去の例からみても、これから2月にかけて、最も発生リスクが高い時期を迎えています。鶏舎周囲、農場入り口及び外周につねに石灰が散布されている状態を維持してくださいよう、繰り返しになりますが、よろしくお願ひします。

## 今シーズン発生事例の疫学調査結果

北海道や青森県、新潟県での発生事例について、農水省が行った現地調査において、次のようなことが多く確認されています。

- 農場付近には、水鳥が飛来する川やため池があった。
- 防鳥ネットや壁の一部が破損しており、スズメなどが鶏舎内に侵入できる状態であった。
- 鶏舎内でネズミの死体が確認された。
- 鶏舎側面の壁と基礎部分の境目に隙間があり、小動物などが侵入できる状態であった。

下の写真のような状況がないように、ウイルス侵入防止対策の徹底をお願いします。



鶏舎側面の金網の破損



金網の穴が大きいため、常時小動物が通過し、そこだけホコリが付着していない。



基礎部分にヒビ割れがある。